

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

よこはま地域福祉研究センター

②施設・事業所情報

名称：しらとり台保育園さつきが丘	種別：児童分野 認可保育所
代表者氏名：園長 竹下まり子	定員（利用人数）： 70（85）名
所在地：横浜市青葉区さつきが丘1-1-2	
TEL：045-978-0015	ホームページ：しらとり台保育園.com
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：2005年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人しらとり台保育園	
職員数	常勤職員：22名 非常勤職員：3名
専門職員	保育士：18名 栄養士：1名
	調理員：1名 看護師：1名
施設・設備 の概要	（居室数）： 9室
	（設備等） 食堂、厨房、地域支援相談室、地 域支援室、一時保育室、調乳室、 沐浴室、休憩室、事務所・医務室 など

③理念・基本方針

（園の理念）
児童福祉法第39条に基づき、保育に欠ける乳幼児の保育を行い、その心身の健全な育成を図ります。一人ひとり個性を持った園児の集団生活を通じて、明るく豊かな心と、健やかな身体を育み「知・徳・体」のバランスの取れた保育を行います。

（基本方針）
自分で考え行動できる子ども、明るく素直で思いやりのある優しい子どもの育成を保育目標とし、豊かな人間性を持った子どもを育成する。

④施設・事業所の特徴的な取組

閑静な住宅街の中にあり、近くには公園や学校もあります。目の前には「さつきが丘地域ケアプラザ」があり、交流も盛んに行っています。

産休明けから就学前までの保育を行っています。一年を通し、季節を感じられる行事を大切にしており、運動会や発表会等の大きな行事では、子どもたちの豊かな心と身体の育成に繋がっています。地域の夏祭りや和太鼓の演奏を披露したり、商業施設のイベントへの参加をしたりと地域の方々ともかかわり合っています。屋上、園庭、テラスとのびのびと遊べる環境も整い、年少クラスからは体育指導と書き方指導、年中クラスからは音楽指導、年長クラスでは造形指導が増え、専門の講師によるカリキュラムも充実しています。給食、おやつ、夕食は無添加を心掛け、旬の食材を取り入れながら手作りで提供し、食育活動やクッキング保育も積極的に行っています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2022年8月5日（契約日） ～
--------	------------------

	2023年3月23日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	1 回（ 2017年度）

⑥総評

◇特長や今後期待される点

【特長】

◆子ども一人ひとりを尊重し、子どもの主体的な育ちを支援しています
園の倫理綱領で子どもの最善の利益の尊重を第一条に掲げ、一人の個として捉え尊重することを謳っています。保育士は子どもと目線を合わせて優しく話しかけ、子どもとの信頼関係を築いています。言葉で表現する力が十分でない子どもには、表情やしぐさ、反応などから子どもの気持ちを汲み取って言葉にして確かめ、子どもが言葉で表現できるように支援しています。子どもを注意する時にも、否定するのではなく子ども自身が気づき、子どもが納得して自分から動けるように働きかけています。また、人権擁護のためのより良い保育を目指して、定期的にグループを組んで話し合いを持っています。その中で、子どもとの具体的な関わり方や言葉掛けについて振り返り、反省や悩みを共有しながら改善への工夫を検討し、方向性を統一して保育の質の向上に努めています。こうした取組を通して、子どもたちは保育士の働きかけにより、安心して自分から気持ちを表現することができ、自信や意欲を育てています。

◆保育の質の保証・向上に積極的に取り組んでいます

園は人材育成に力を注いでいて、階層別に職員のあるべき姿を明確にして職員に提示しており、保育スキルアップシートを用いて目標を設定して自己啓発に取り組んでいます。動画による解説を取り入れた新人研修や園内研修を行い、知識や技術の向上を目指しています。また、保育に関する知識について各自の理解度を定期的にチェックリストで確認し、結果を分析して定着をはかっています。保育に関するマニュアルについては、必要に応じて整備、見直しをし、また、業務の手順を示す各マニュアルは、写真やイラストを用いて伝え方を工夫するなど、職員への周知・定着をはかる取組が積極的に行われています。

【今後期待される点】

◆中期計画と単年度計画の整合性を図り、数値目標や具体的な成果等を設定することが期待されます

法人として中長期計画を策定しており、理念や基本方針の実現に向けた目標を明確にした上で経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっています。ただし、どのような方法で具体的に取り組んでいくかは明確ではなく、そのために、その計画の実施状況を評価できるようにはなっていません。単年度の事業計画も具体的な成果を把握する指標を設定し、法人による中期計画を反映して、職員の意見をより積極的に取り入れつつ園独自に策定していくことが望まれます。昨年度実施した職員アンケートなどから得られた園の問題点や課題を整理し改善点として次年度の計画に盛り込むこと、さらに時系列で実行すべきタイミングを示し、定量的に実行結果を評価できるようにすることもPDCAの考え方から必要と考えられます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

今回第三者評価を受審し、当保育園の取り組みを客観的に見て頂きました。評価を受けることで、全職員で改めて振り返りを行い、保育業務全体を見直すとても良い機会となりました。
今回の結果を受け、利用者のニーズを検討し、新たに取り組んできている事、また

日々の保育を高く評価していただき、職員一同うれしく思うのと同時に、今後の保育への自信にもつながりました。

反対に課題となる項目も明確となり、順次改善を図っていくことが急務だと思っております。

今後も、保護者が安心して預けられ、子どもたちも健やかに育ち、職員も充実感をもって仕事に取り組める保育園を目指してまいりたいと思います。

最後になりましたが、ご尽力いただいた評価機関のみなさま、利用者調査にご協力いただきました保護者の皆様のおかげで、有意義に受審を終えることができました。

心より感謝申し上げます。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり